

## 故障と点検

※取り付け後、万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。

### アームオーリング

6. キズ・ゴミかみはないか？

### アーム止ビス

4. 十分に締め付けてあるか？  
アームの位置は調整されているか？

### 取付ビス

3. きちんと取り付けてあるか？  
壁の補強は十分か？

### ホルダー固定ビス

5. 十分に締め付けてあるか？

### ヘッドパッキン

7. きちんと取り付けてあるか？

### 逆止弁

2. 破損・ゴミかみはないか？

### カップリング

9. ヘッド、ハンドシャワー  
どちらに接続していますか？

### ホースパッキン

8. 十分に締め付けてあるか？  
破損・ゴミかみはないか？

### 水栓金具

1. 全開されているか？  
圧力は十分か？

現象	点検箇所
吐水量が少ない	1. 2
バーがガタつく	3
アームがガタつく	4
ホルダーがガタつく	5
バーより漏水する	6
ヘッドより漏水する	7
ホースより漏水する	8
シャワーに切り替わらない	9
散水が頭に当たらない	4

27030000、2703100J

水栓部についてのお問い合わせ  
各メーカーさまにお問い合わせください

シャワーパイプのお問い合わせ  
グローエジャパン株式会社営業部  
03-3298-9685

## グローエジャパン株式会社

本 社 〒143-0006 東京都大田区平和島6-1-1 東京流通センタービル  
TEL 03-3298-9683 FAX 03-3767-3811  
大阪営業所 〒550-0014 大阪市西区北堀江1-5-2 四ツ橋新興産ビル  
TEL 06-6533-3015 FAX 06-6533-3460

GROHEJAPAN ホームページ  
<http://www.grohe.co.jp>

# シャワーパイプ施工説明書 (お客様にお渡してください)

## 機種名

レインシャワー付  
カップリング式  
切り換え式

## 一般地用品番

2 7 0 3 0 0 0 0  
2 7 0 3 1 0 0 J  
2 7 0 8 9 0 0 J

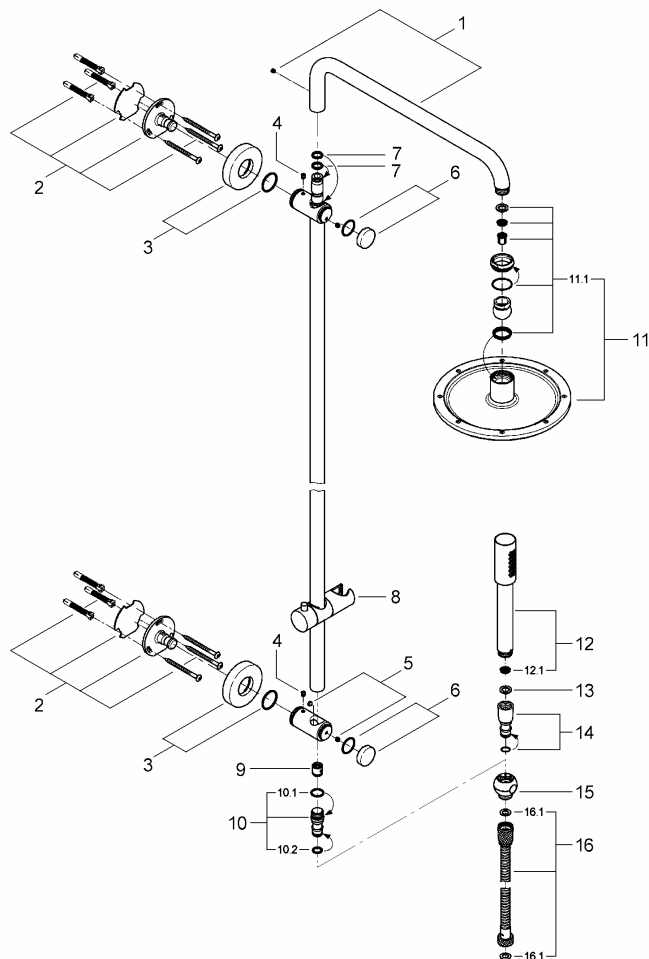
## 寒冷地用品番

- 製品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
- この施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で故障が生じた場合は、商品の保証を致しかねますのでご注意ください。
- 施工完了後、試験運転を行い、異常が無いことを確認するとともに、「取扱説明書」にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- また、この説明書は、お客様で保管頂くように依頼してください。

## 分 解 図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

図番	名称
1	アーム
2	金具セット
3	フランジ
4	固定ビス
5	ホルダースクリュー
6	キャップ
7	Oリング
8	スライドフック
9	逆止弁
10	ニップルセット
10.1	Oリング
11	レインシャワー
11.1	パッキンセット
12	セナシャワー
12.1	ストレーナー
13	パッキン
14	ユニオン
15	カップリング
16	ホース



※図は2 7 0 3 0 0 0 0です

## 安全上の注意

施工前にこの「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく施工してください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

## ⚠注意

固定の際は、強度の高い壁面（補強のうら板等）にしっかりと取り付けてください。

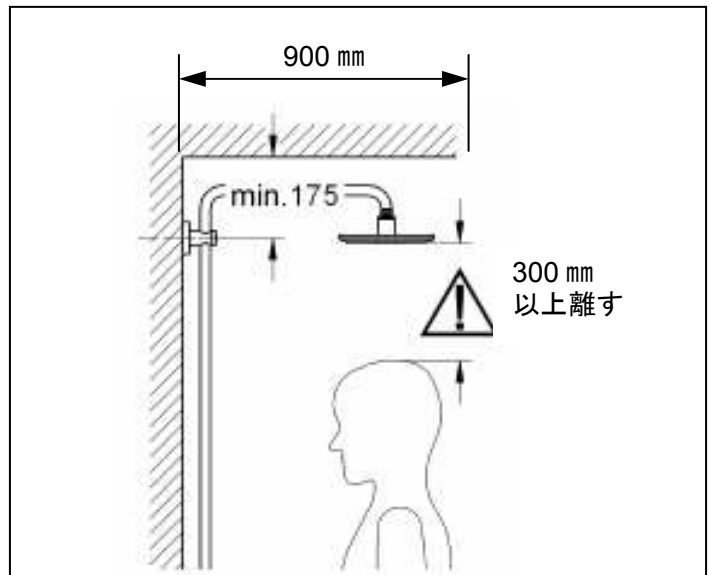
※器具が落下し、思わぬケガをするおそれがあります。

施工完了後は、配管接続部分及び器具から、水漏れの無いことを確認してください。

※漏水で、家財を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

## 使用条件

- 使用水压は、流動圧で  $0.1\text{Mpa}$  [ $1.0\text{kgf/C m}^2$ ] ～  $0.74\text{Mpa}$  [ $7.5\text{kgf/C m}^2$ ] の範囲とします。
- 使用条件を加味して適正な水栓金具を選ばないと適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります
- 使用場所を加味して適正な位置を選ばないと適正な散水状態が得られないことがあります。
- レインシャワーの極端な角度調整はしないでください。接続ねじがゆるみ、落下等の事故が起こるおそれがあります
- 取付位置の目安は身長より約 300 mm 上で、取り付けの際に天井と干渉しないよう 175 mm 以上離します。



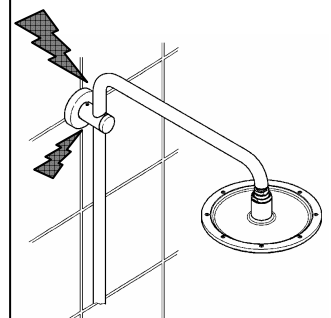
## 施工前の注意

- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。
- 給水は上水道に接続してください。  
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
- 開梱、取り付けの際には商品の表面に傷をつけないように十分に注意してください。
- 必ず配管中の異物（ゴミ、砂等）を完全に洗い流してください。
- 壁面は商品重量に耐えることを確認のうえ、動かないように確実に固定してください。
- レインシャワー重量が約 2.3 kg 程度あります。商品の落下によるケガにご注意してください。
- 高所での作業は、足場のしっかりした状態で、転落等が発生しないよう考慮してください。

ケガや転落等に注意



壁の破損に注意



## 取り付け後の確認

取り付け完了後、必ず下記の項目を確認してください。

### 1. 接続部の水漏れ (図 22 参照)

吐水、止水を数回くりかえした後、図の箇所を点検します。

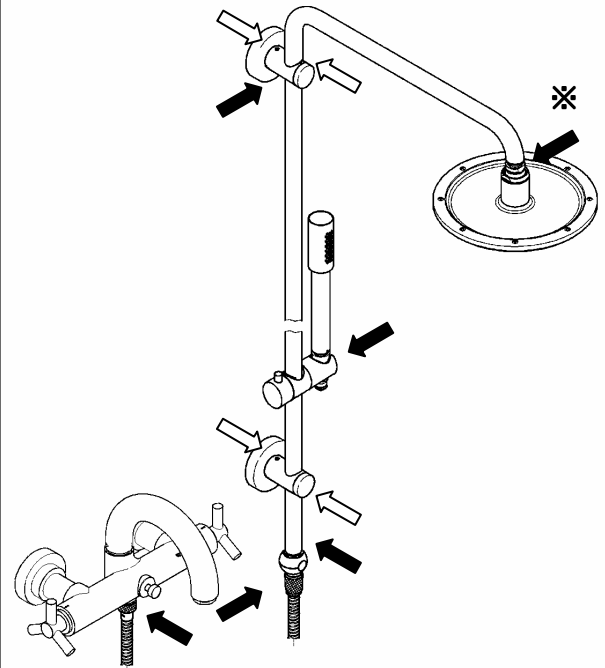
- 水栓金具などとホースの接続部。
- ホースとカップリングの接続部。
- カップリングとニップルの接続部。
- ニップルとアームの接続部。
- アームとレインシャワーの接続部
- ユニオンとハンドシャワーの接続部。

※特に、この部分は通水後漏水のない事を必ず確認し、万が一漏水が確認された場合パッキンを新品に取り替えた上、再度規定のトルクで締付を行ってください。

### 2. 固定部のゆるみ (図 22 参照)

- 壁と金具の固定部。
- 金具とホルダーの固定部。
- ホルダーとバーの固定部。
- バーとアームの固定部。

図 22



## 故障と点検

※取り付け後、万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。

※上部は 27030000、2703100J と共通です

取付ビス

3. きちんと取り付けてあるか？  
壁の補強は十分か？

ホルダー固定ビス

5. 十分に締め付けてあるか？

逆止弁

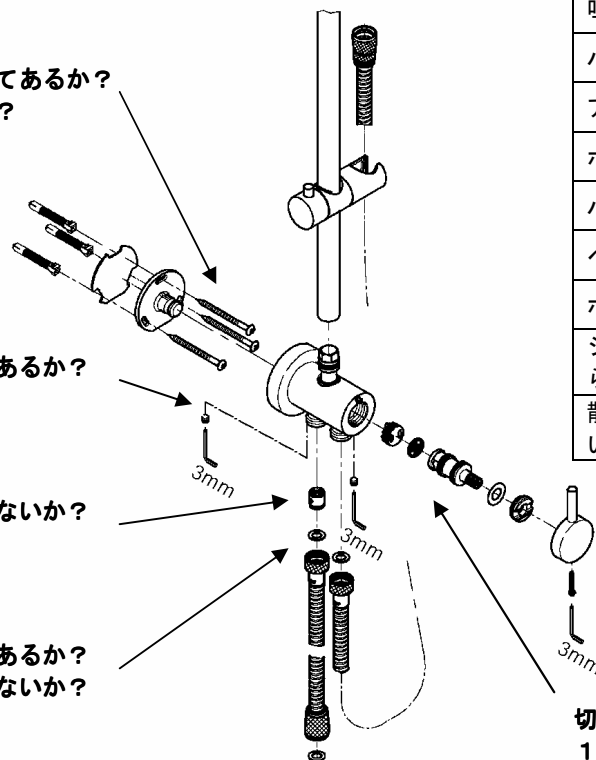
2. 破損・ゴミかみはないか？

ホースパッキン

8. 十分に締め付けてあるか？  
破損・ゴミかみはないか？

水栓金具

1. 全開されているか？  
圧力は十分か？



現象	点検箇所
吐水量が少ない	1. 2
バーがガタつく	3
アームがガタつく	4
ホルダーがガタつく	5
バーより漏水する	6
ヘッドより漏水する	7
ホースより漏水する	8
シャワーに切り替わらない	10
散水が頭に当たらない	4

2708900J

切換弁

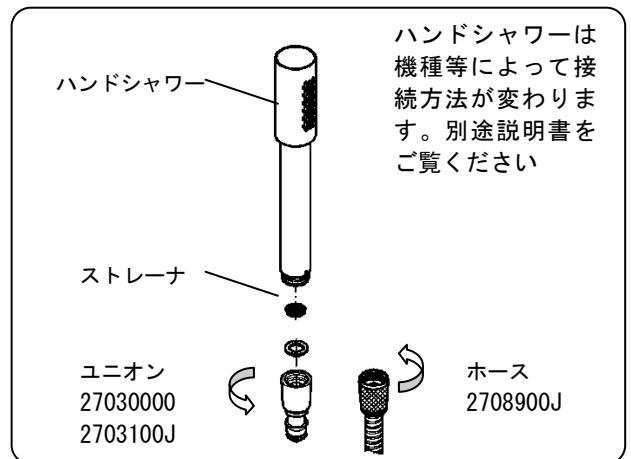
10. 破損・ゴミかみはないか？

## 11. ユニオンまたはホースの取り付け

(図 10 参照)

- ① 付属のユニオンまたはホースを付属のハンドシャワーに手で右回しにねじ込んでください。
- ② または、既存のハンドシャワーもしくは別途購入したハンドシャワーに付属のユニオンを取り付けてください。  
 ※強くねじ込み過ぎると、パッキンの割れ等が発生する場合があります。  
 ※ハンドシャワーは機種等によって接続方法が変わります。別途説明書をご覧ください。  
 ※接続ねじが G 1 / 2 でないと取り付けられません。

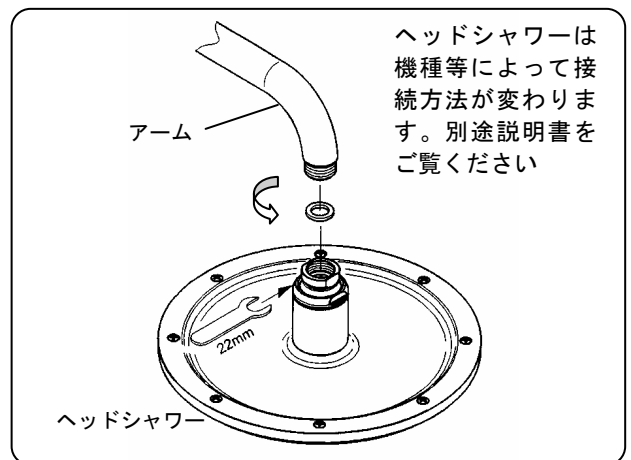
図 10



## 12. ヘッドシャワーの取り付け (図 11 参照)

- ① 付属のファイバーパッキンをはめ込んでください。
- ② アームを手で固定し、ヘッドを工具で右回しにねじ込んで締め付けてください。
- ③ または、別途購入したヘッドシャワーを取り付けてください。  
 ※締め付けは、200~300kgf・cmのトルクで行ってください。初期の締め付けが弱いと漏水、落下等の原因になります。  
 ※商品の落下、足場の確保等、ケガのないよう作業を行ってください。  
 ※ヘッドシャワーは機種等によって接続方法が変わります。別途説明書をご覧ください。  
 ※接続ねじが G 1 / 2 でないと取り付けられません。

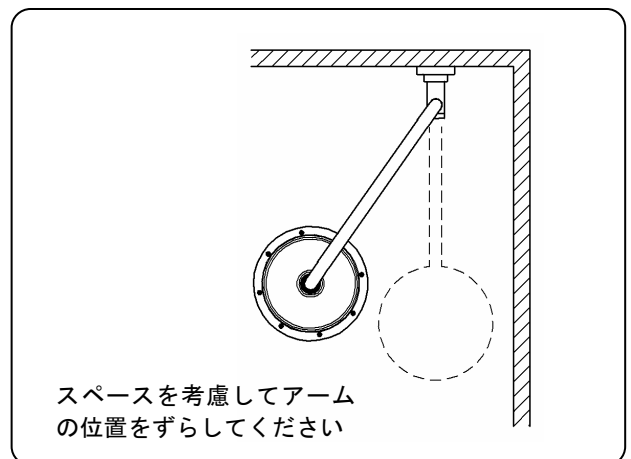
図 11



## 13. アームの位置調整 (図 12 参照)

- ① アームの固定位置は任意に選択が可能です。
- ② 壁、水栓金具などの位置関係によって、快適な空間ができるようアームの固定位置を調整してください。  
 ※落下防止のため固定ビスを仮に止めてください。

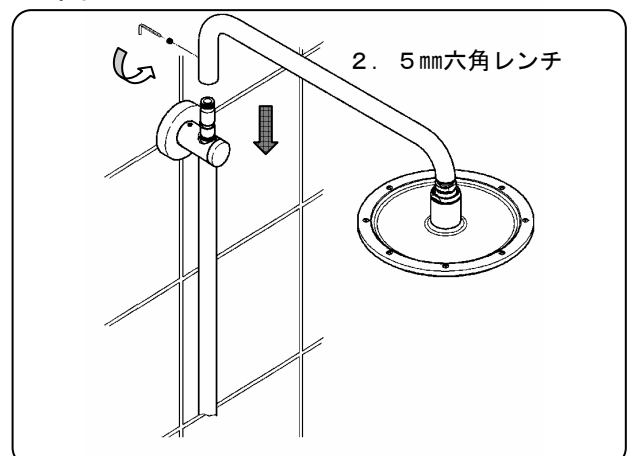
図 12



## 14. アームの固定 (図 13 参照)

- ① 上部ニップルにアームを差し込んでください。
- ② お客さまとご相談のうえ、お好みの位置で止ビスを 2.5mm六角レンチで右回しにねじ込んで固定してください。  
 ※アームが差し込みにくい場合は、ニップルのリングにグリスを塗ってください。

図 13

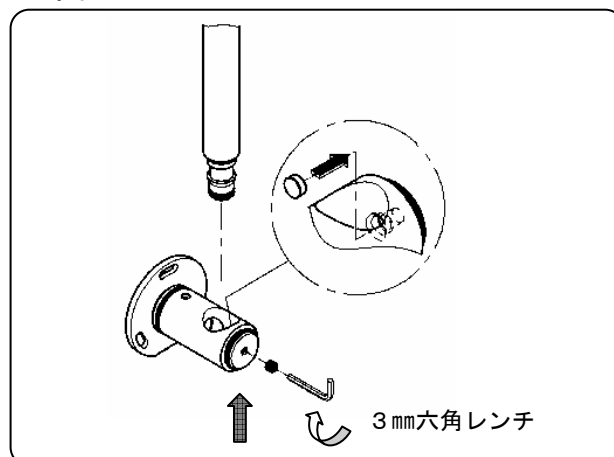


27030000・2703100J（図1～13参照）

1. 下部ホルダーの準備（図1参照）

- ①ウォールバーの下部ホルダーは任意に移動できます。
- ②ホルダーに付属のゴムキャップを内側よりはめ込んでください。
- ③ウォールバーにホルダーを差し込んでください。
- ④付属のねじを3mm六角レンチで右回しにねじ込んで仮に止めてください。  
※ゴムキャップ、ねじは小さい部品ですので、紛失に気をつけてください。

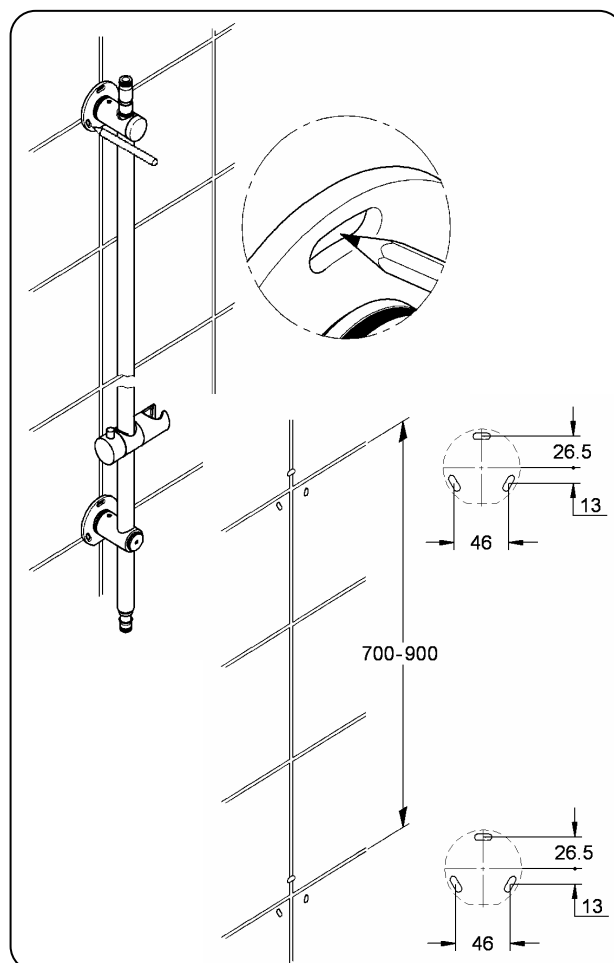
図1



2. 取付位置の準備（図2参照）

- ①ウォールバーには上下があります。固定のホルダーが上部になります。
- ②取付位置にウォールバーをあてて、ホルダーセット内部の金具を壁面に押しつけます。
- ③金具を固定する穴（六箇所）をエンピツ等でけがいてください。
- ④ユニットバスの場合は補強の裏板を準備し、その位置に取り付けてください。  
※規定の寸法を厳守してください。バーを切ったり、伸ばすことはできません。  
※寸法図を参考にし、けがいた場合も、一度金具を壁に押しつけ、アームを差し込んで取り付くか確認してください。  
※取付位置の目安は上部ホルダーの位置が身長より約30cm上で、取り付けの際に天井と干渉しないよう18cm以上離します。

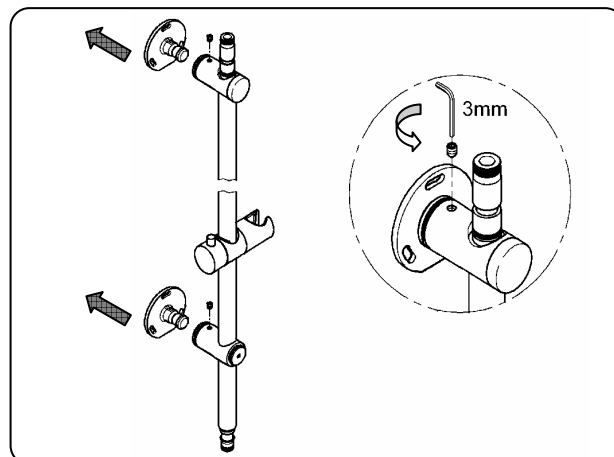
図2



3. 金具の取り外し（図3参照）

- ①金具を固定している固定ビスを3mm六角レンチで左回しにゆるめてください。
- ②金具をホルダーより取り外してください。  
※固定ビスを取り外した場合は、紛失に気をつけてください。

図3



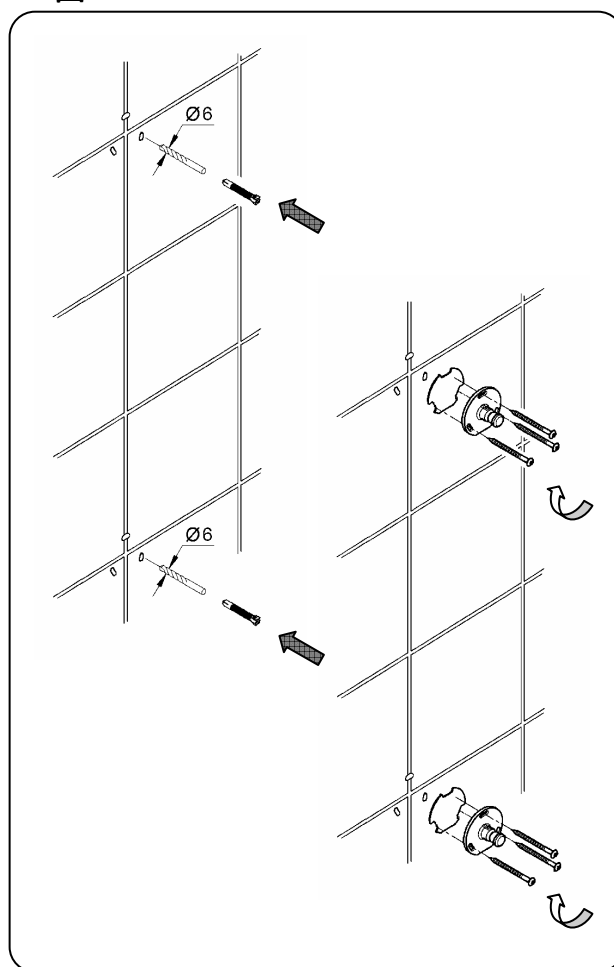
#### 4. カプラーの取り付け (図4 参照)

- ① 取付位置にドリル等で  $\phi 8$  mmの穴を6つ明けてください。
- ② 付属のカプラーを完全に差し込んでください。  
※ユニットバス等コンクリートを使用していない場所では穴明けの必要はありません。  
もしくは、ユニットバス専用のカプラーをご使用してください。

#### 5. 金具の取り付け (図4 参照)

- ① 金具には上下があります。キリカキを下に向けて使用してください。
- ② 金具にパッキンをはめ込んでください。
- ③ 上部金具を壁面に押しつけ、取付ビスを工具（ドライバ等）で右回しにねじ込んでください。
- ④ 下部金具も同様になります。  
※取付ビスは同等品であれば、付属の取付ビス以外でも使用可能です。  
※ユニットバスの場合は、補強の裏板をご使用してください。

図4



#### 6. フランジの準備 (図5、6 参照)

- ① 固定ビスを3mm六角レンチで右に回し、ホルダーの中へ入れてください。
- ② または、固定ビスを3mm六角レンチで左回しにゆるめ、完全に取り外してください。
- ③ ホルダーのOリング側にフランジ（くりぬき面を壁側）を差し込んでください。
- ④ ホルダーにフランジを差し込んだ後、固定ビスを3mm六角レンチで左回しにゆるめてください。
- ⑤ または、固定ビスを3mm六角レンチで右に回し、ホルダーに仮に止めてください。  
※固定ビスを取り外した場合は、紛失に気をつけてください。  
※フランジが差し込みにくい場合は、ホルダーのOリングにグリスを塗ってください。

図5

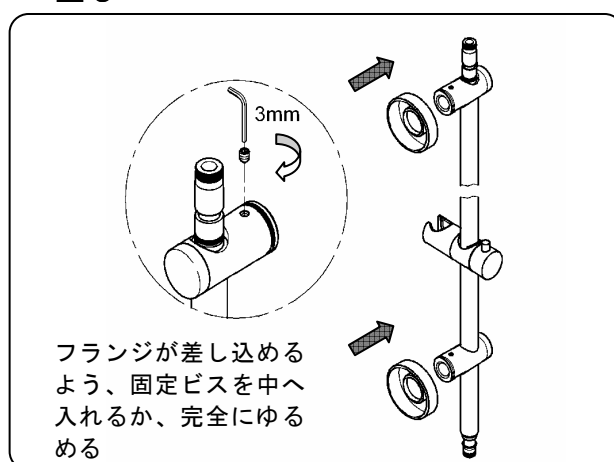
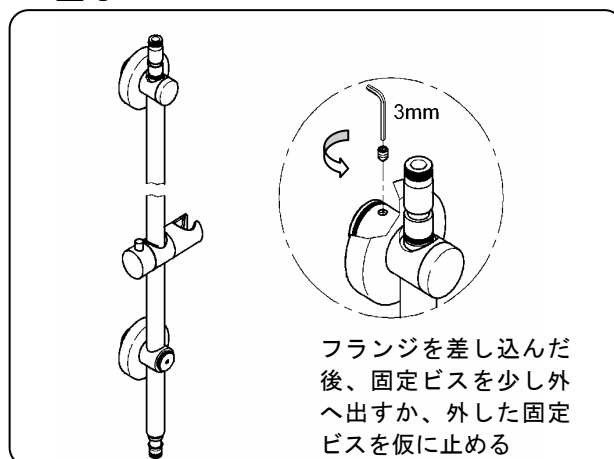


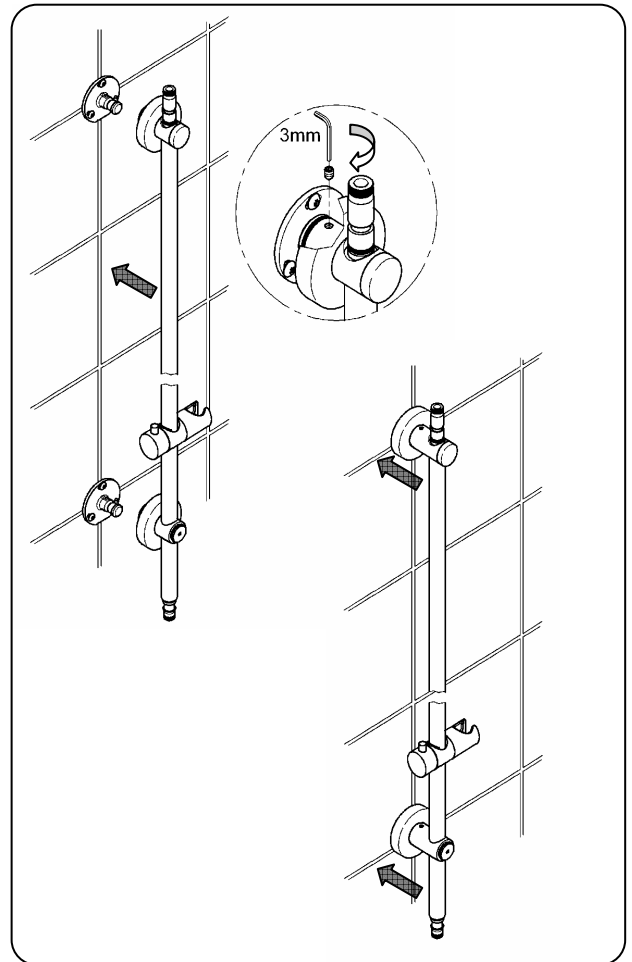
図6



## 7. スライドバーの取り付け (図7 参照)

- ①ウォールバーには上下があります。固定のホルダーが上部になります。
  - ②上部金具に上部ホルダーを、下部金具に下部ホルダーを、上下同時にゆっくり差し込んでください。
  - ③上下ホルダーの固定ビスを3mm六角レンチで右回しにねじ込んで固定してください。
  - ④差し込んだスライドバーが垂直でない場合は、金具の取付ビスをゆるめ、金具の固定位置を調整してください。
- ※スライドバーが差し込みにくい場合は、金具の位置がずれているおそれがあります。金具の固定位置を確認してください。

図7



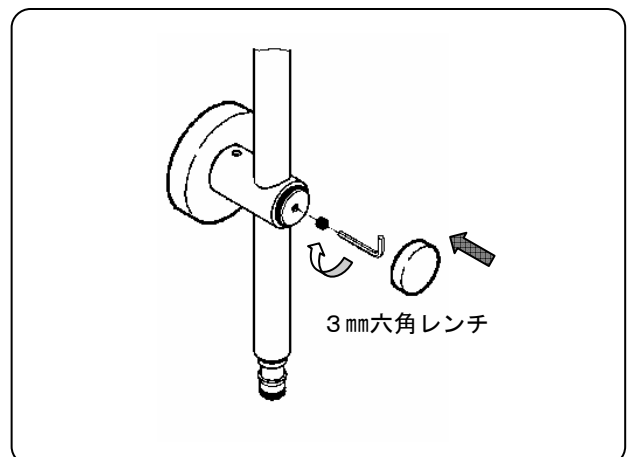
## 8. フランジの固定 (図7 参照)

- ①フランジを壁面にあたるまで手でいっぱいまで押し込んでください。
  - ②フランジのグラつきや壁(床)内部へ水の浸入の恐れがある場合は、コーキング等シール材を使用してください。
- ※フランジの若干のガタつきは構造上発生します。固定したい場合はフランジのふちにコーキング等を使用してください。

図8

## 9. 下部ホルダーの固定 (図8 参照)

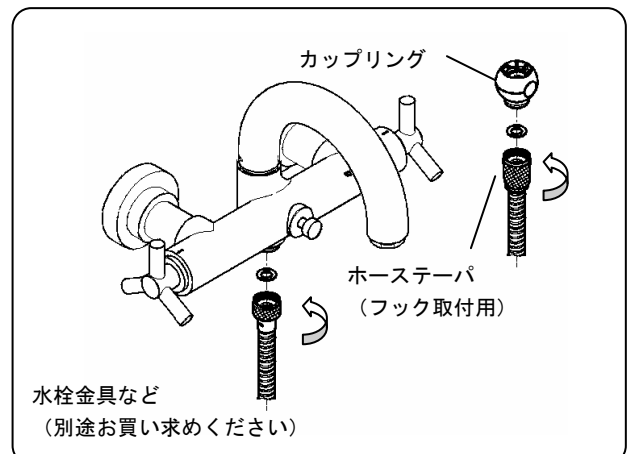
- ①付属のねじを3mm六角レンチで右回しにねじ込んで固定してください。
  - ②キャップを手ではめ込んでしてください。
- ※キャップの若干のガタつきは構造上発生します。



## 10. ホースの接続 (図9 参照)

- ①水栓金具などのホース接続部にホース袋ナットを手もしくは工具(プライヤー)等で右回しにねじ込んでください。
  - ②カップリングにホーステーパ(フック取付用)袋ナットを手もしくは工具(プライヤー)等で右回しにねじ込んでください。
- ※ホースにパッキンが付属しているか確認してください。
- ※工具を使用する時は袋ナットが傷つかないように注意してください。
- ※強くねじ込み過ぎると、パッキンの割れ等が発生する場合があります。

図9



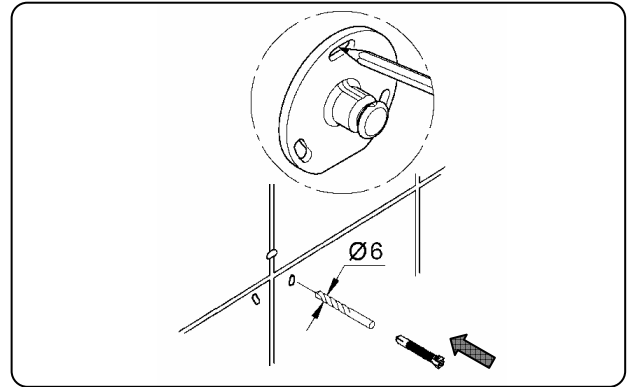


2708900J (図 14～21、図 10～13 参照)

1. カプラーの取り付け (図 14 参照)

- ①取付位置にドリル等でφ 6 mmの穴を3つ明けてください。
- ②付属のカプラーを完全に差し込んでください。  
※ユニットバス等コンクリートを使用していない場所では穴明けの必要はありません。  
もしくは、ユニットバス専用のカプラーをご使用してください。  
※取付位置の目安は下部ホルダーの位置が身長より約71cm下、天井より119cm以上離します。

図 14



2. 金具の取り付け (図 15 参照)

- ①金具には上下があります。キリカキを下に向けて使用してください。
- ②金具にパッキンをはめ込んでください。
- ③上部金具を壁面に押しつけ、取付ビスを工具（ドライバ等）で右回しにねじ込んでください。
- ④下部金具も同様になります。  
※取付ビスは同等品であれば、付属の取付ビス以外でも使用可能です。  
※ユニットバスの場合は、補強の裏板をご使用してください。

図 15

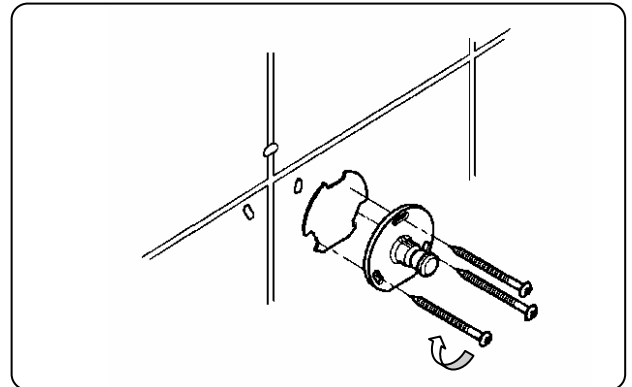


図 16

3. 下部のホルダーの取り付け (図 16 参照)

- ①下部金具に下部ホルダーをゆっくり差し込んでください。
- ②下部ホルダーの固定ビスを3mm六角レンチで右回しにねじ込んで固定してください。  
※固定ビスは小さい部品ですので、紛失に気をつけてください。

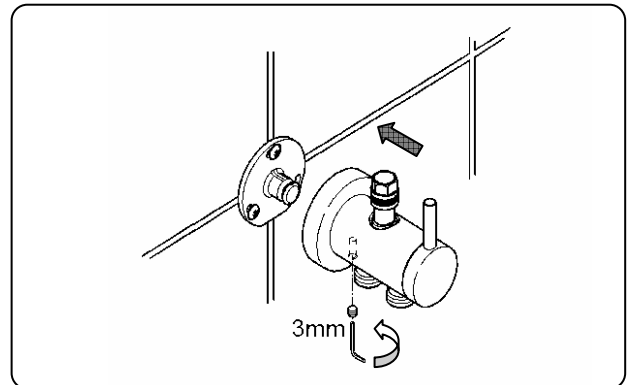
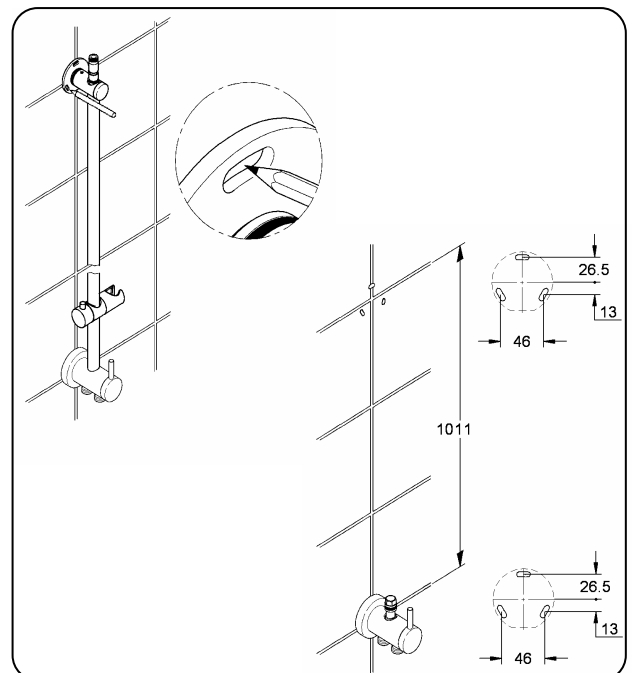


図 17

4. 上部ホルダー取付位置の準備 (図 17 参照)

- ①下部ホルダーにウォールバーを差し込みます。
- ②取付位置に上部ホルダーをあてて、ホルダーセット内部の金具を壁面に押しつけます。
- ③金具を固定する穴（三箇所）をエンピツ等でけがいてください。
- ④ユニットバスの場合は補強の裏板を準備し、その位置に取り付けてください。  
※規定の寸法を厳守してください。バーを切ったり、伸ばすことはできません。  
※寸法図を参考にしてけがいた場合も、一度金具を壁に押しつけ、アームを差し込んで取り付くか確認してください。  
※取付位置の目安は上部ホルダーの位置が身長より約30cm上で、取り付けの際に天井と干渉しないよう18cm以上離します。



## 5. カプラー・金具の取り付け (図 14、15 参照)

## 6. 上部フランジの準備 (図 18、19 参照)

- ① 固定ビスを 3mm 六角レンチで右に回し、ホルダーの中へ入れてください。
- ② または、固定ビスを 3mm 六角レンチで左回しにゆるめ、完全に取り外してください。
- ③ ホルダーのリング側にフランジ（くりぬき面を壁側）を差し込んでください。
- ④ ホルダーにフランジを差し込んだ後、固定ビスを 3mm 六角レンチで左回しにゆるめてください。
- ⑤ または、固定ビスを 3mm 六角レンチで右に回し、ホルダーに仮に止めてください。  
※ 固定ビスを取り外した場合は、紛失に気をつけてください。  
※ フランジが差し込みにくい場合は、ホルダーのリングにグリスを塗ってください。

## 7. スライドバーの取り付け (図 20 参照)

- ① ウォールバーには上下があります。固定のホルダーが上部になります。
- ② 下部ホルダーにウォールバーを差し込み、上部金具に上部ホルダーをゆっくり差し込んでください。
- ③ 上部ホルダーの固定ビスを 3mm 六角レンチで右回しにねじ込んで固定してください。
- ④ 差し込んだスライドバーが垂直でない場合は、金具の取付ビスをゆるめ、金具の固定位置を調整してください。  
※ スライドバーが差し込みにくい場合は、下部ホルダーの固定ビスをゆるめ、上下のホルダーを同時にゆっくり差し込んでください。また、金具の固定位置を確認してください。

## 8. フランジの固定 (図 7 参照)

- ① フランジを壁面にあたるまで手でいっぱいまで押し込んでください。
- ② フランジのグラつきや壁（床）内部へ水の浸入の恐れがある場合は、コーキング等シール材を使用してください。  
※ フランジの若干のガタつきは構造上発生します。固定したい場合はフランジのふちにコーキング等を使用してください。

## 9. ホースの接続 (図 9 参照)

- ① 水栓金具などのホース接続部にホーステーパ（フック取付用）袋ナットを手もしくは工具（プライヤー）等で右回しにねじ込こんでください。
- ② 下部ホルダーの壁側のホース接続部に袋ナットを手もしくは工具（プライヤー）等で右回しにねじ込こんでください。
- ③ 下部ホルダーの手前側のホース接続部に袋ナットを手もしくは工具（プライヤー）等で右回しにねじ込こんでください。  
※ ホースにパッキンが付属しているか確認してください。  
※ 工具を使用する時は袋ナットが傷つかないように注意してください。  
※ 強くねじ込み過ぎると、パッキンの割れ等が発生する場合があります。

図 18

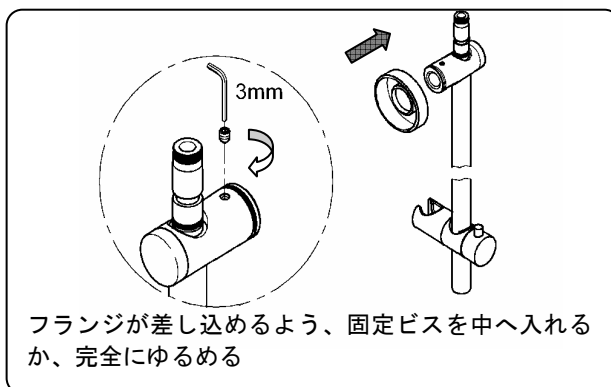


図 19

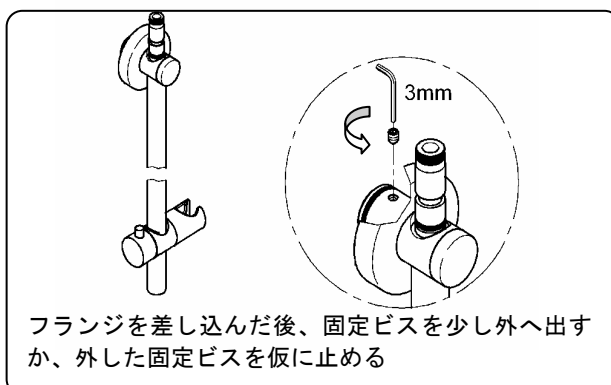


図 20

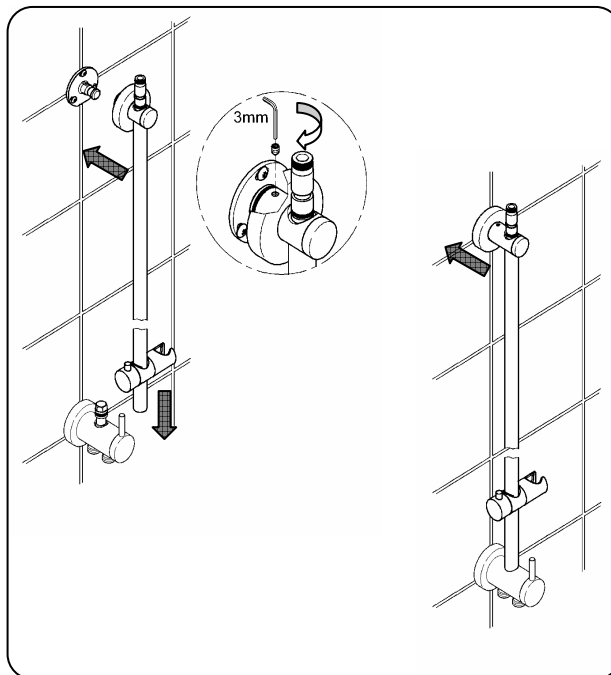


図 21

